

パプア津波被災地

日本人医師が

治療を始める

【アイタペヘパプアニューギニア西セピック州】25日、高木和男】多数の死傷者を出したパプアニューギニアの津波被災地で二十四日、被災後、医師の治療が行われなかった海岸沿いの無医村アイポコンに初めて日本人医師が入り、本格的な治療を始めた。

活動を始めたのは、民間の医療ボランティアグループAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）の和田邦雄医師（五十三）三人。抗生物質などの医薬品を使って治療している。三人は二十七日まで現地で診察や治療にあたる。